東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008年12月26日

ムハッラム月

親愛なるムスリムの皆様。犠牲祭と巡礼を過去のものとした今、預言者ムハンマドが「アッラーの月」と定義されたムハッラム月が近づいてきています。ムハッラム月は、歴史を通して人類にとっての転換地点と見なすことのできる重要な出来事が起こってきた月です。このため、イスラームにおいても、イスラーム以前においても、ムハッラム月には特別な重要性が与えられてきたのです。事実、預言者ムハンマドはあるハディースで、「ラマダン月のあとの断食のうち最も尊いものは、ムハッラム月に行われる断食である。」と仰せられておられます。

さらに、預言者ムハンマドはこの月の、アシューラの日として知られる第10日について、その前日と翌日も断食をして過ごすことを奨励されておられます。

大切な兄弟姉妹の皆様。イスラーム暦の1月であるムハッラム月は、同時に、イスラーム史上起こってきたいくつかの悲しい出来事をも思い起こさせるものです。なぜならムハッラム月は、カルバラの悲劇とフサインの死を思い起こさせるものであるからです。

フサインは、預言者ムハンマドの婿にあたるアリーと天国の女性たちの母ファートゥマの子であり、預言者ムハンマドが世界の二つの花、来世においても天国の子供たちの王と賞賛され、「アッラーよ、私は彼らを愛しているのです。あなたも愛してください」とドゥアーされ、自ら名を付けられた孫です。フサインが政治的な理由で残酷な形で殉死させられたことは、預言者ムハンマドとその家の人々を愛する全ての信者達を心から悲しませ、人々の心を痛ませるものとなったのです。

親愛なるムスリムの皆様。預言者の家の人々は、預言者ムハンマドの幸福な家庭で育ち、そのお方の愛情に満ちた心からその豊かさを受け継いだ模範的な、理想的な人々です。それぞれが星のような存在なのです。崇高なるアッラーは預言者ムハンマドの家の人々について、「家の者たちよ、アッラーはあなたがたから不浄を払い、あなたがたが清浄であることを望まれる。」（部族連合章第33節）と仰せられています。

預言者ムハンマドも、その家の人々と教友達を愛すること、彼らを模範とすることを奨励されておられます。この奨励を自らの道案内としているムスリムたちの心では、その家の人々への愛情が根付き、集団として私たちを一体化させる要素の一つとなっているのです。アッラーが彼らをお慶びくださいますように。